

ひかり

2024年1・2月号

第720号



Purification

日本聖公会 三光教会

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

電話 03(3781)2554

FAX 03(3781)2544

<http://nsskk.org/tokyo/church/sanko/stephen/>

創立 救主降誕 1912年(大正元年)11月2日

「私の後に従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を負って、私に従いなさい。」

(マルコによる福音書 8:34)

「教会とはどのような集いなのか」

副牧師 司祭

ヤコブ 萩原 充

2024年1月6日顕現日に司祭按手の恵みに与りました。これまでの三光教会の皆様のお祈りとお支えに大変感謝しております。神と人々とに仕え、務めを全うすることができそうです。これからもお祈りいただけますとありがたいです。

わたしは2012年12月に受洗し、2016年に聖公会神学院に入学する前の1年間、スピリチュアルケア師の資格認定講座に通いました。この講座に通ったことが今のわたしの在り方・考え方に大きな影響を与えています。講座では川崎市中原区にあるホツとスペース中原で実習をさせていただきました。ここは教会が、高齢者や障害者を支援する施設を運営しています。実習で現場に身を置いて働くことの必要性和意義を感じたわたしは、これから学校で神学を学び、聖職になるというのはどういうことなのか、今すぐ現場に飛び込んでし

まったのだろうか、と問い続ける日々が始まりました。

神学院で学び、さまざまな施設で実習を重ねるなかで、わたしはキリストを着て、わたしという存在を通してキリストを伝えていくために聖職に召されているのではないかと考えるようになりました。現在病院だけでなく、学校や社会福祉施設も、宣教師たちによって建てられたキリスト教主義に基づき施設においては、なぜわたしたちの施設でキリスト教を大切にするのか、キリスト教主義とは何かと問われるようになっていくといえるでしょう。そのような中でわたしは、キリスト教主義を見える形とするのは、知識や教義ではなく、そこに生き動く人間存在が、キリストを着た者が在るということではないか。それを違う言葉で言うならば、世の価値観とは違う視座に立つて世界を見ている人がおり、その視座を次の世代の人に伝えていく役割を担う。これが自分に与えられている使命なのではないか、と考えるようになってのです。

世の価値観とは違う視座、すなわちキリスト教信仰に基づく

独自のまなざしを、わたしは「共苦(Compassion)」だと考えています。主イエスは、病人や障害者、女や子どもたち、娼婦たちのような当時の宗教的・社会的価値観によって周縁に排斥され、孤立していた「最下層・最底辺に生きる『受苦者たち』」のもとへと赴き、共に生きることへと招きました。そして十字架にかけられることによって、「イエス自らも大いなる『受苦者』」となりました。このようなイエスの「苦しみの共有(Compassion)」の態度において、「苦しみのコミュニティ」とでも呼ばれるべき交わりの輪が形成されたのです(滝澤武人『イエスの現場』)。

教会は共苦の共同体である。この世の中を生きる困難や苦しみを分かち持つことによってつながるのが教会ではないのか、とわたしは考えます。

コロナ禍によって、「教会とは何か」という根源的な問いがわたしたちに問いかけられることとなりました。わたしたちは「なぜ教会に集うのか」という問いに、共に向き合い、語り合いたいと思います。

2月～3月の予定

◆ 2月

14 日(水) 大斎始日 (灰の水曜日)
18 日(日) 大斎節第1主日
21 日(水) 春期聖職按手節
23 日(金) 殉教者主教ボリカープ
24 日(土) 春期聖職按手節
25 日(日) 使徒聖マッテヤ日
大斎節第2主日

◆ 3月

1 日(金) 主教ディビッド
3 日(日) 大斎節第3主日
4 日(月) 3月逝去者記念礼拝
7 日(木) 殉教者ベチュアと仲間たち
10 日(日) 大斎節第4主日
12 日(火) 主教教会博士グレゴリー
17 日(日) 大斎節第5主日
主教バトリック
18 日(月) 主教教会博士エルサレムのシリル
19 日(火) 聖ヨセフ日
21 日(木) 主教トマス・克蘭マー
23 日(土) 第144(定期)教区会
24 日(日) 復活前主日
25 日(月) 復活前月曜日
26 日(火) 復活前火曜日
27 日(水) 復活前水曜日
28 日(木) 聖木曜日
29 日(金) 聖金曜日 (受苦日)
30 日(土) 聖土曜日 (イースター・ヴィ
ジル)

■ 喜びのことば

荻原 充師が 司祭に按手される

東京教区司祭志願者・執事ヤコブ
荻原充師の聖職按手式が、救主降
生2024年1月6日(顕現日)
に私たちの三光教会で執り行なわ
れ、喜びのうちに終了しました。

司祭按手の当日、三光教会聖堂
に設けられた250の会衆席は埋め
つくされました。司式は高橋宏幸
主教、式典長は下条裕章司祭、副
式典長は上田亜樹子司祭、中川英
樹司祭。祭壇には東京教区の聖職
と協働教区である北関東教区から
の司祭団が上り、式典の全容はひ
ろくネット配信されました。説教
壇からは佐々木道人司祭が新司祭
の前途に激励の言葉を贈られまし
た。主のみ恵みのうちに司祭職に
按手された荻原充師に、教会の信
徒全員がお祝いの言葉を贈りまし
た。「おめでとうございます」
執事時代の荻原先生から受けた
教えは多々ありますが、もともと
感謝すべきは、コロナ禍により教
会での聖餐式が閉ざされた時期
(2022～23年)に毎主日、

対面とオンラインで信徒奉事者を
中心に開いてくださった聖書研究
の集いでありました。東京教区の
聖書講座「主日の福音に聴く」を
テキストにして、キリストのみこ
とば・問いかけを各自がどのよう
に受け止めたか、順番で毎回2
人づつ自分の思いをリポートする
ことを求められました。9人の受
講者(安次嶺佳子、伊藤和彦、大
越保正、黒川正三・文子、松崎尚
美、牟田実、吉川晃の諸兄姉と鈴
木一)がほとんど欠席することな
く受講を全うすることが出来たの
は、毎回の荻原先生の熱意が、先
の見えないコロナ禍を生き抜く支
えとして聖書を深く読み込む自覚
を全員に植え付けてくださったか
らだと思っています。

もう一つ、2023年3月5
日の大斎節の学びで荻原先生が、
『夜と霧』の著者であるヴィクト
ール・フランクルの死生観と哲学、
フランクルに始まる死生学が、コ
ロナに怯える日々、ことに高齢者
にとって、暗い現実を生き抜く支
えとなるだろうという講話は示唆
に富んでいました。その折に示さ
れた『フランクルの臨床哲学』
(岡本哲夫著)を後日購読してみ
ました。難しかったけれど、得る

ものも大なる書であり、荻原先生
がされたこの大斎講話に感謝して
おります。

執事の時代には指導司祭の異
動が相次いで、荻原先生には御苦
労の多かったことと思います。け
れども、三光教会をよく知る中川
英樹管理司祭のもとで司祭按手を
迎えられたことは、教会員にとつ
ても大いなる幸いでした。

教会には生老病死につながる
悩みを持つ者が多く訪れます。こ
れからは悩みを持つひとりとひと
りに深く接して豊かな牧会を進めて
いただけることを願って、荻原充
司祭様の門出をお慶び申し上げま
す。
(記・鈴木 一)

写真・石川恭温



日本聖公会 東京教区 三光教会

〒142-0064 東京都品川区旗の台 6-22-24

TEL03 (3781) 2554/FAX03 (3781) 2544

公 示

日本聖公会法規第 138 条の規定に従い、日本聖公会東京教区 三光教会（定期）堅信
受領者総会を下記のように召集します。

2024 年 1 月 21 日 顕現後第 3 主日

日本聖公会 東京教区 三光教会

管理牧師 司祭 ニコラス 中川 英樹

記

日時： 2024 年 2 月 25 日(日) 大斎節第 2 主日 第Ⅱ聖餐式後

場所： 三光教会 聖堂

議案 1. 2023 年度 教務報告 承認の件

議案 2. 2023 年度 活動報告 承認の件

議案 3. 2023 年度 会計決算報告・会計監査報告 承認の件

議案 4. 2024 年度 活動計画案 承認の件

議案 5. 2024 年度 会計予算案 承認の件

議案 6. 教会委員被選挙人名簿への記載の件

教会のお掃除にご協力を

聖堂内外のお掃除の協力者が
少なくなりました。土曜日の午
前 10 時から 1 時間程ご奉仕くだ
さい。ご協力いただける方は直
接参加してください。

はじめて教会にいらした方へ
礼拝様式に馴れない方は椅子に
お掛けになったままで結構で
す。

- 礼拝中の献金は、信施金とし
て伝道のために献げられるも
のです。金額は自由です。
- わからない点は隣の席の者か
案内係にお聞きください。

礼拝のご案内

■ 主日礼拝

午前 7:30 聖餐式
午前 10:30 ステパノ会
(日曜学校) 礼拝
午前 10:30 聖餐式
午後 4:00 夕の礼拝

■ 平日礼拝

毎朝 6:30 から
月、水、金は朝の礼拝、
火、木、土は聖餐式